

母親学級における精神心理面及び栄養面に関する 指導方針に関する研究

主任研究者 高橋悦二郎

研究目的

本研究は三年間にわたって行われたもので、初年度は妊産婦を対象にした母親学級に関する研究を行い、二年度、三年度は乳幼児を持つ母親を対象にした学級について行われたものである。

いずれも母親学級の実態について調査し、妊産婦や母親達が母親学級から学んでいるものや、それへの期待、不満などについて調べ、母親学級のあり方や運営、内容や指導方法等の充実強化をはかる為、如何にしたらよいか、殊に精神心理面及び栄養面についての指導方針について検討しようとした。

研究結果

初年度は妊産婦を対象とした母親学級（病産院、診療所、保健所、母子健康センター等で開催されているもの）873ヶ所からのアンケート調査で精神心理面の問題として、妊婦の不安や、母性意識の問題等が取り上げられ、それに対する指導方法等が検討された。

分娩需要の多様化、不安の原因の多様化、母性意識の発達の方の個人差などから、画一的に集団指導を行うのでは対応しきれないのではないかと。集団指導の中に個別指導的な面も加味して妊婦に説得理解、安心させる工夫が望まれる。又学級で妊婦同志話し合えたことが不安解消等に大いに役立っていることがうかがえるが、新しいコミュニケーションの場として、妊婦同志が話し合える時間帯や雰囲気等を作ることが、母親学級の運営上大切になってくると思われる。

二年度、三年度の乳幼児をもつ母親を対象とした学級については、学級実施側に対するアンケート（回収数 977 カ所）、国立公衆衛生院で研修中の保健婦栄養士に対するアンケート（計62名）、保育園・幼稚園児をもつ母親（1,400名）を対象に、母親学級についての印象や期待等について答えて貰い、調査研究を行った。

この種の母親学級にも教育委員会で行われるもの、保健所、市町村、その他で行われるもの等いろいろあるが、精神心理面の問題は主として教育委員会で行き上げられ、保健所、市町村では少く、栄養面に関する指導はその逆である。もっとも精神衛生面、栄養についての指導は全体的にみてまだ少く、各教室で、親子関係や母親自身の精神衛生に関するテーマのものを望む声が多い。栄養食事に関する母親の心配は、70%くらいは母親学級で解決されたという結果も一部では得られたが、余り効果ないという声も聞かれる。

いずれにしても保健と教育、更に福祉の分野の協力があって、より向上した母親学級の運営が望まれる。

なお調査資料分析にとどまらず、この研究から、母親学級の手引書の作成を試みている。

<プロジェクト研究1>

母親学級における精神心理面及び栄養面に関する 指導方針に関する研究

(3) 資料分析・実験と手引書の作成

研究第7部長	高橋 種 昭
副 所 長	高橋 悦二郎
研究第1部	堀 口 貞 夫 ・ 千 賀 悠 子
研究第2部	斎 藤 幸 子
研究第3部	加 藤 忠 明
研究第4部	武 藤 静 子 ・ 水 野 清 子
研究第5部	望 月 武 子
研究第6部	権 平 俊 子
研究第7部	萩 原 英 敏
研究第8部	湯 川 礼 子
共同研究者	山 本 清 恵 (母子愛育会心理治療室)
	高 野 陽 (国立公衆衛生院)
	須 永 進 (東京都足立高等保育学院)

1. はじめに

今年度の研究は、前々年から引続いて行ってきた、母親学級の指導方針に関する研究の、総括となるものである。前年までの研究は、全国で幅広く行なわれている、種々の母親学級の実態を明らかにする事を通じて、今後の母親のあるべき姿なり、内容について考察を加えたものであった。

今年度の研究は、調査を通じて得られた資料を、更にくわしく分析すると共に、実験的に異なるタイプの学級を開設し、その結果について検討を加え、母親学級の今後の在り方を考案し、母親学級の手引書の作成を試みたものである。

今年度の研究は、次の4つの種類のものからなっている。

- その 1. 質問紙調査の分析
- その 2. 資料分析
- その 3. 実験的な試み
- その 4. 母親学級の手引書の作成

2. 質問紙調査の分析

(1) 研究方法

昭和59年度と同じ。即ち、調査地域は主として東京・神奈川・青森の3カ所の他、少数ではあるが9県にわたっている。

対象は保育園児、幼稚園児をもつ母親及び保健所の健診に来所した乳幼児をもつ母親949名で、この中、乳幼児を対象とした母親学級(以下学級と略称)に参加したことのある者385名、参加したことのない者564名である。

調査内容は育児に対する自信の有無及び児の生活や食事に関する心配の有無、学級の受講場所やそのテーマ、問題の解決状況やその効果、学級に対する不満や実生活とのギャップ、今後の希望など10項目からなっている。

(2) 調査結果及び考察

(i) 母親の育児における問題点と解決状況

育児に対する自信の有無と児の生活及び食生活上の問題をみると、自信がややない又ははない者の約85%は児の生活や食事の上で何らかの心配をもっており、育児に自信がある者に比べその割合は有意に高かった($p<0.001$)。

育児に自信がない場合にはその57%が栄養や食事、生活や育児に心配をもっており、自信がある者に比べてその割合は高かった ($p < 0.05$)。

児の生活や食事に心配のある者はない者に比べ、学級で解決した割合は有意に高かった ($p < 0.05$)。発育・発達、病気、栄養・食事、生活・育児の領域における問題の解決状況をみると、発育・発達に関する心配があった者の63%が、栄養・食事に関しては72%が、生活・育児に関しては60%の者が解決されていた。一方、病気に関する心配をもっていた者は、病気に関することよりも栄養・食事、発育発達に関する問題解決の割合が高く、病児をもった母親にはこれらの領域を含めた指導が多く望まれる。生活・育児に心配があった者は栄養・食事に関する問題解決の割合が高く、この領域は栄養・食事を含めた広範囲にわたるためであろう。

(ロ) 学級を受けた場所とその効果

6種の受講場所における学級の効果を表1に示す。保健所で学級を受けた者に効果なしとする者の割合が幾分か高かったが、いずれの場所においても大部分の者に学級の効果がみられた。保健所、公民館で受講した者では、母親同志が話し合えたこと、不安が解消された割合が高く、病院では育て方と母親同志の話し合いが、幼稚園では母親同志の話し合い、子どもの気持が理解できたこと、保育所では母親同志の話し合いをあげる者の割合が多かった。学級を受講して育児に自信がついた者は6~20%程度であった。受講内容に対する不満の有無やその内容には、受講場所による明らかな差異は認められなかった。

(ハ) 学級におけるテーマと諸条件との関係

●テーマと受講場所について

8つのテーマと受講場所との関連づけを表2に示す。問題行動に関しては他のテーマに比べ保健所で受講する割合が高かったが、それ以外のテーマでは、対象の約2/3が保健所で受講していた。病院で受講した65名中、61名は栄養に関する指導を受け、幼稚園で受講した49名中、41名、保育所で受講した78名中、62名は生活習慣・しつけについての指導を受けており、受講場所によりテーマの内容に相違がみられた。学級の開催場所として特に優劣はなく、それぞれの場所での特徴を生かした指導が望まれる。

●テーマと問題解決の有無

各テーマ毎に解決状況をみると、いずれのテーマも60~70%の者は問題が解決されており、現在の学級でその成果は一応認められよう。一方、解決した問題ごとに受講したテーマを分析すると、病気に関して解決した21名中、11名は病気と予防に関するテーマを、19名は栄養と

食事を、18名が身体発育に関するテーマを受講していた。栄養・食事に関して解決した101名中、85名はこのテーマを受講し、57名が生活習慣・しつけを、56名が身体発育について、また、生活・育児について解決した71名中52名がこのテーマを、53名が栄養・食事に関するテーマを受講していた。それゆえ、病気、栄養・食事、生活・育児に関する問題を解決するためには、上述の領域におけるテーマについての指導が望まれる。

●テーマと受講効果及び効果の内容

テーマ別に学級の効果をみると、いずれのテーマも95%前後の者に効果が認められた(表3)。効果の内容をみると、いずれのテーマにおいても母親同志が話し合えたので役立った者が約半数を占めており、母親学級の運営上、母親同志が話し合える時間帯や雰囲気を作ることが必要であろう。問題行動、事故防止・安全教育、遊びのテーマでは子どもの気持がわかったとする母親が多く、それらがテーマの場合には子どもの気持を理解させることを中心に指導することが望ましい。

●テーマと学級に対する不満及び実生活とのギャップについて

学級に対する不満をテーマ別にみると、テーマ間に大差はみられなかった。いずれのテーマにおいても約40%の者は時間の短長の問題をあげており、次に内容に対する不満の割合が高かった。

一方、いずれのテーマにおいても実生活と教えられたこととの間にギャップありとした者が約半数から2/3にみられた。中でも問題行動及び病気と予防に関してはギャップがあった者の割合が幾分か高かった。いずれのテーマにおいても2/3が実行しにくいとしており、また、20~30%の者は自分の子どもに当てはまらないなど、現実とそぐわないことを指摘していた(表4)。

●テーマに対する希望

テーマ毎に学級に対する希望をみると、身体発育、栄養・食事をテーマにする場合には実際に役立つことを、それ以外のテーマの場合には親としての心構えを希望する者が多かった。特に、問題行動についてはこの比率が高かった(表5)。

一方、学級の学習形式に対する希望をみると、各テーマとも話し合い形式を望む者が多かったが、中でもテーマが問題行動である場合には、26名中、19名が話し合いを希望していた。

(ニ) 育児の背景と受講効果及び希望

●受講効果

受講して効果があつた割合は全体の94%であり、育児に対する自信の有無、児の生活や食事に関する心配の有

表1 母親学級の受講場所とその効果

() %

	効 果		育て方がわかった	子どもの気持ちがわかった	不安が解消した	自信がついた	母親同志が話し合えた	そ の 他
	な し	あ り						
保 健 所	15(6.4)	219(93.6)	67(30.6)	43(19.6)	70(32.0)	35(16.0)	87(39.7)	0
公 民 館	3(4.3)	66(95.7)	19(28.8)	17(25.8)	30(45.5)	9(13.6)	31(47.0)	1(1.6)
集 会 所	0	19(100.0)	6(31.6)	7(36.8)	2(10.5)	4(21.1)	8(42.1)	1(5.3)
病 院	2(3.1)	63(96.9)	26(41.3)	11(17.5)	18(28.6)	12(19.0)	25(39.7)	3(4.8)
幼 稚 園	1(2.0)	49(98.0)	9(18.4)	22(44.9)	13(26.5)	3(6.1)	22(44.9)	1(2.0)
保 育 所	2(2.5)	77(97.5)	26(33.8)	24(31.2)	24(31.2)	13(16.9)	47(61.0)	5(6.5)
そ の 他	1(3.8)	25(96.2)	9(36.0)	9(36.0)	11(44.0)	8(32.0)	11(44.0)	2(8.0)

表2 母親学級のテーマと受講場所

() %

受 講 者 数	保 健 所 234	公 民 館 68	集 会 所 19	病 院 65	幼 稚 園 49	保 育 所 78	他 26
身 体 発 育	123 (70.3)	38 (21.7)	7 (4.0)	38 (21.7)	12 (6.9)	27 (15.4)	12 (6.9)
精 神 ・ 言 語	73 (68.2)	25 (23.4)	3 (2.8)	21 (19.6)	15 (14.0)	28 (26.2)	8 (7.5)
栄 養 ・ 食 事	197 (70.1)	49 (17.4)	14 (5.0)	61 (21.7)	29 (10.3)	48 (17.1)	20 (7.1)
生活習慣・しつけ	126 (61.2)	35 (17.0)	13 (6.3)	39 (18.9)	41 (19.9)	62 (30.1)	12 (5.8)
遊 び	39 (62.9)	10 (16.1)	4 (6.5)	14 (22.6)	10 (16.1)	22 (35.5)	6 (9.7)
問 題 行 動	15 (51.7)	5 (17.2)	2 (6.9)	5 (17.2)	3 (10.3)	16 (55.2)	4 (13.8)
病 気 と 予 防	76 (67.3)	20 (17.7)	6 (5.3)	27 (23.9)	25 (22.1)	26 (23.0)	7 (6.2)
事故防止・安全教育	31 (66.0)	5 (10.6)	4 (8.5)	12 (25.5)	7 (14.9)	13 (27.7)	7 (14.9)
そ の 他	5 (71.4)	1 (14.3)	0	1 (14.3)	1 (14.3)	1 (14.3)	1 (14.3)

表3 母親学級のテーマと受講効果

() %

	効 果		育て方がわかった	子どもの気持ちがわかった	不安が解消した	自信がついた	母親同志が話し合えた	そ の 他
	な し	あ り						
身 体 発 育	8(4.5)	168(95.5)	60(35.7)	34(20.2)	58(34.5)	33(19.6)	69(41.1)	9(5.4)
精 神 ・ 言 語	1(0.9)	107(99.1)	36(33.6)	32(29.9)	38(35.5)	18(16.8)	51(47.7)	9(8.4)
栄 養 ・ 食 事	17(6.1)	263(93.9)	86(32.7)	48(18.3)	85(32.3)	46(17.5)	110(41.8)	13(4.9)
生活習慣・しつけ	5(2.4)	201(97.6)	57(28.4)	66(32.8)	60(29.9)	31(15.4)	94(46.8)	8(3.9)
遊 び	1(1.6)	61(98.4)	21(34.4)	24(39.3)	20(32.8)	15(24.6)	34(55.7)	4(6.6)
問 題 行 動	1(3.4)	28(96.6)	11(39.3)	15(53.6)	12(42.9)	9(32.1)	16(57.1)	4(14.3)
病 気 と 予 防	3(2.7)	110(97.3)	35(31.8)	30(27.3)	38(34.5)	18(16.4)	53(48.2)	5(4.5)
事故防止・安全教育	2(4.3)	45(95.7)	9(20.0)	19(42.2)	16(35.6)	14(31.1)	25(55.6)	4(8.9)
そ の 他	0	7(100.0)	2(28.6)	1(14.3)	4(57.1)	1(14.3)	1(14.3)	0

高橋他：母親学級における精神心理面及び栄養面に関する指導方針に関する研究

表4 各テーマと教えられたこととの間のギャップについて

() %

	ギャップ		時間と余裕 がないと出 来ない	経済的に無 理	自分の子に 当てはまら ない	自分のやり 方とかけ離 れている	理屈はわか るが実行し にくい	そ の 他
	な し	あ り						
身 体 発 育	73(42.9)	97(57.1)	38(39.2)	6(6.2)	22(22.7)	7(7.2)	59(60.8)	7(7.2)
精 神 ・ 言 語	37(35.9)	66(64.1)	25(37.9)	2(3.0)	16(24.2)	4(6.1)	45(68.2)	5(7.6)
栄 養 ・ 食 事	107(40.2)	159(59.8)	68(42.8)	12(7.5)	22(13.8)	10(6.3)	104(65.4)	8(5.0)
生活習慣・しつけ	71(36.8)	122(63.2)	52(42.6)	10(8.2)	13(10.7)	7(5.7)	80(65.6)	9(7.4)
遊 び	24(38.7)	38(61.3)	16(42.1)	2(5.3)	4(10.5)	4(10.5)	26(68.4)	6(15.8)
問 題 行 動	8(29.6)	19(70.4)	9(47.4)	2(10.5)	4(21.1)	3(15.8)	14(73.7)	1(5.2)
病 気 と 予 防	34(31.5)	74(68.5)	24(32.4)	6(8.1)	14(18.9)	5(6.8)	51(68.9)	4(5.4)
事故防止と安全教育	16(35.6)	29(64.4)	14(48.3)	3(10.3)	7(24.1)	4(13.8)	19(65.5)	1(3.4)
そ の 他	3(50.0)	3(50.0)	2(66.7)	0	0	0	1(33.3)	0

表5 各テーマに対する今後の希望

() %

	受講者数	実際にすぐ 役立つこと	子どもを理解する ための基礎知識	親としての 心構え	自分の子ども 個々の問題	そ の 他
身 体 発 育	154	70 (45.5)	61 (39.6)	59 (38.3)	37 (24.0)	0
精 神 ・ 言 語	97	43 (44.3)	38 (39.2)	49 (50.5)	30 (30.9)	2 (2.1)
栄 養 ・ 食 事	245	114 (46.5)	85 (34.7)	98 (40.0)	65 (26.5)	1 (0.4)
生活習慣・しつけ	174	67 (38.5)	62 (35.6)	86 (49.4)	45 (25.9)	0
遊 び	54	24 (44.4)	21 (38.9)	30 (55.6)	14 (25.9)	0
問 題 行 動	23	9 (39.1)	12 (52.2)	14 (60.9)	5 (21.7)	0
病 気 と 予 防	100	44 (44.0)	37 (37.0)	54 (54.0)	23 (23.0)	1 (1.0)
事故防止と安全教育	41	16 (39.0)	16 (39.0)	20 (48.8)	10 (24.1)	0
そ の 他	5	4 (80.0)	1 (20.0)	1 (20.0)	0	0

表6 育児に対する自信の有無及び解決した問題の有無と受講効果

() %

	効果なし	効果あり	育て方がわ かった	子どもの気持 がわかった	不安が解消 した	自信がつい た	母親同志話 し合えた	そ の 他
自 信 あ り	6(5.5)	104(94.5)	29(26.6)	23(21.1)	19(17.4)	28(25.7)	42(38.5)	5(4.6)
やや自信なし	13(6.0)	205(94.0)	67(32.7)	46(22.4)	71(34.6)	23(11.2)	91(44.4)	10(4.9)
自 信 な し	1(2.3)	43(97.7)	11(25.6)	10(23.3)	19(44.2)	2(4.2)	13(30.2)	2(4.7)
解決した問題 有	0	192(100.0)	59(30.7)	51(26.6)	72(37.5)	32(16.7)	79(41.1)	8(4.2)
” なし	21(15.1)	118(84.9)	37(31.4)	19(16.1)	27(22.9)	11(9.3)	50(42.4)	8(6.8)

無による差はなかった。しかし、効果の内容ではグループ間に差があって、育児に自信のないものほど不安が解消した割合が高くなっており、自信があるものでは自信がついた割合が高く、いずれも有意差がみられた。

当然のことながら、受講して解決した問題があったものでは全員が効果があったと回答していた。効果の内容は、不安が解消した、子どもの気持がわかった、の割合が高く、解決した問題の領域別にみると、病気に関するものでは育て方がわかった、生活・育児に関するものでは子どもの気持がわかった、という割合が高かった。(表6)。

●不 満

受講しての不満は、児の生活・食事に関する心配の有無と関連があり、心配があったものの方に不満の割合が有意に高かった ($p < 0.01$)。不満の内容としては、時間が短い又は長い、会場が遠い、自分の子どもにあてはまらない、の割合がいずれも高く、心配のなかったものでは、内容がつまらないというものが多かった。

受講効果がなかったものでは不満が強くみられ、内容がつまらない、自分の子どもにあてはまらない、が多く挙げられていた。また、教えてもらいたいこととして、すぐ役に立つこと、自分の子どもの個々の問題、を望むものが多く、学習形式では、話し合い形式、実習的指導を多く望んでいた。受講効果がなかったものは22名で受講者の5.8%にすぎないが、学級運営上の改善すべき点を指摘しているものと考えられる。

さらに、実生活と受講内容とにギャップがあるという割合は、育児に自信がないもの、児の生活や食事に関する心配があるものの方に有意に高く ($p < 0.005$) 60~75%を占めていた。ギャップの内容は、育児に対する自信の有無、心配がある問題領域による差はなく、どの場合でも理屈はわかるが実行しにくいのが最も多く、次いで時間と余裕がないとできないであった。

●学級に対する希望

育児に対する自信の有無、児の生活や食事に関する心配の有無にかかわらず、すぐ役に立つこと、親としての心構え、子どもを理解するための基礎知識、自分の子どもの個々の問題、の順に希望されていたが、育児に自信のないものや心配のあったものでは、自分の子どもの個々の問題を望む割合がやや高くなっていた。

また、受講して解決した問題があるものでは、解決した問題がないものに比べ、親としての心構えを望む割合が有意に高く、解決した問題の領域別にみると、発育・発達に関しては子どもを理解するための基礎的知識を、病気、生活・育児に関しては親としての心構えを望む割

合が高かった。(表7)

受講して不満があったものでは自分の子どもの個々の問題を、不満のないものは親としての心構えを望んでおり、母親のおかれた状況や育児の背景により希望する内容には差がみられた。

(ホ) 母親の生育歴との関係

次に母親の生育歴との関係についてみると、以下の如くなる。

母親の生育歴(複数回答)に関して、病気やケガが多かったと回答したA群94名、親の育て方に不満が多かったB群74名、実母以外に養育されることが多かったC群56名、子供の頃つらい思い出が多いD群53名、自分の子をもつまで小さい子に接する経験がなかったE群119名、家族と一緒に食事が少なかったF群23名、既製品・店屋物の食事が多かったG群15名、食事に関する楽しい思い出が少ないH群68名、A~H群の総数264名を対象として分析を行った。

● 母親学級の意義

各群に関して母親学級受講により問題が解決された割合を表8に示す。何か問題解決された割合はB、C、F群に比較的高く、生活・育児に関して解決された割合はB、H群に有意に高かった。問題解決の有無により現在ストレスを感じる母親の割合を表9に示す。問題解決なしの場合、E群以外の各群では現在ストレスを感じる母親は比較的多く、この割合が85%以上あるB、D、G、H群では、問題解決した場合にストレスは少なくなっていた。出席して効果があったと回答した割合は全例で93.5%あり、これは母親の生育歴との関連は認められなかった。

● 母親学級の改善点

母親学級受講内容を表10に示す。A群は身体発育、B群は遊びや問題行動、C群は栄養・食事について受講する割合が有意に高く、F、G群では栄養・食事を受講する割合が比較的高く、H群では有意に低かった。母親学級への不満の有無を表11に示す。A、B、C、F、Hの各群で有意に不満が多く、不満の内容では時間の長短をあげるものが最も多く、次に内容がつまらない、会場が遠い、自分の子に当てはまらない、の順であった。受講希望内容として、全例の調査では実際に役立つこと37.4%、親としての心構え33.5%、子供を理解するための基礎知識29.6%、自分の個々の問題21.4%の順であったが、G、H群では親の心構えを、B、C、G群では個々の問題を希望する割合が比較的多かった。実際の育児と受講内容とのギャップの有無を表12に示す。B、D、H群ではギャップ有りの割合が有意に高かった。A~H群まとめた

表7 「解決した問題の有無」及び「受講しての不満」と「教えてもらいたい内容」

() %

希望内容	すぐ役に立つこと	基礎的知識	親としての心構え	自分の子の個々の問題	その他
解決した問題あり	54 (45.4)	34 (28.6)	34 (28.6)	36 (30.3)	0
“ なし	72 (42.6)	62 (36.7)	79** (46.7)	39 (23.1)	1 (0.6)
発 育 ・ 発 達	23 (39.7)	30*** (51.7)	26 (44.8)	14 (24.1)	1 (1.7)
病 気	7 (36.8)	8 (42.1)	13* (68.4)	8 (42.1)	0
栄 養 ・ 食 事	43 (46.7)	35 (38.0)	41 (44.6)	27 (29.3)	1 (1.1)
生 活 ・ 育 児	27 (44.3)	26 (42.6)	42**** (68.9)	15 (24.6)	1 (1.6)
受講して不満あり	40 (45.5)	34 (38.6)	27 (30.7)	35 (39.8)**	0
“ 不満なし	100 (43.7)	79 (34.5)	97* (42.4)	45 (19.7)	2 (0.9)

表8 母親学級での問題解決

	問題解決なし	問題解決あり	栄養・食事解決あり	生活・育児解決あり
全例385例	36.4%	50.1%	26.8%	18.7%
A群 94例	40.4	51.1	28.7	18.1
B 74	27.0	59.5	32.4	29.7**
C 56	30.4	64.3	33.9	21.4
D 53	37.7	47.2	24.5	24.5
E 119	33.6	55.5	33.6	22.7
F 23	30.4	60.9	34.8	17.4
G 15	33.3	53.3	40.0	26.7
H 68	33.8	51.5	27.9	27.9*

表9 問題解決とストレス

	問題解決なし		問題解決あり	
	例 数	ストレス	例 数	ストレス
全 例	140例	57.1%	193例	59.6%
A 群	38	63.2	48	70.8
B	20	85.0	44	77.3
C	17	58.8	36	66.7
D	20	85.0	25	68.0
E	40	47.5	66	62.1
F	7	71.4	14	71.4
G	5	100.0	8	87.5
H	23	87.0	35	62.9*

表10 母親学級での受講内容

	身体発育	精神発達	栄養食事	生活習慣	遊 び	問題行動	病気予防	事故防止
全例385例	45.7%	28.1%	72.7%	53.5%	16.1%	7.5%	29.4%	12.2%
A群 94例	57.4*	34.0	69.1	52.1	17.0	9.6	29.8	11.7
B 74	50.0	39.2	70.3	64.9	24.3*	16.2***	31.1	17.6
C 56	42.9	33.9	83.9*	53.6	23.2	12.5	26.8	17.9
D 53	41.5	30.2	60.4	54.7	17.0	11.3	18.9	11.3
E 119	44.5	28.6	70.6	50.4	15.1	5.0	28.6	8.4
F 23	52.2	34.8	82.6	56.5	26.1	17.4	26.1	26.1
G 15	53.3	33.3	86.7	46.7	26.7	13.3	26.7	13.3
H 68	48.5	30.9	63.2*	58.8	20.6	8.8	26.5	13.2

*: $p < 0.05$, **: $p < 0.01$, ***: $p < 0.005$

表11 母親学級への不満

	不満あり	不満なし	ギャップあり	ギャップなし
全 例	24.4%	69.1%	53.0%	40.5%
A 群	34.0*	62.8	61.7	33.0
B	39.2***	55.4	73.0***	21.6
C	41.1**	53.6	57.1	35.7
D	26.4	66.0	66.0**	22.6
E	25.2	66.4	52.9	37.8
F	52.2***	39.1	65.2	26.1
G	20.0	60.0	60.0	33.3
H	36.8***	51.5	66.2**	26.5

表12 受講内容とギャップ

表15 育児上の問題の有無と母親学級不参加の理由

() %

	育児上に問題あり	育児上に問題なし
仕事があるため	209 (49.8)	65 (51.6)
テレビ・本で情報が得られる	38 (9.0)	17 (13.4)
子どもがいるから	41 (9.8)	13 (10.3)
会場が遠い	36 (8.6)	8 (6.3)
母親学級を知らなかった	64 (15.2)	10 (7.9)
その他	43 (10.2)	15 (11.9)
無 回 答	36 (8.6)	11 (8.7)

表13 母親学級参加の有無と育児に対する自信の有無

() %

	学級参加者	学級不参加者
育児に自信がある	111 (29.6)	148 (27.1)
やや自信がない	219 (58.4)	332 (60.8)
自信がない	45 (12.0)	66 (12.1)

表14 学級不参加者の育児上の問題の有無と諸条件との関係

() %

		育児上に問題あり	育児上に問題なし
母親の職業	有	306 (77.1)	88 (76.5)
	無	91 (22.9)	27 (23.5)
母親の学歴	中 学	35 (8.6)	23 (19.3)
	高 校	217 (53.2)	63 (52.9)
	短大以上	156 (38.2)	33 (27.7)
母親の年齢	20 歳 代	103 (25.0)	33 (27.1)
	30 "	297 (72.1)	76 (62.3)
	40 "	12 (2.9)	12 (9.8)
	50 "	0	1 (0.8)
子どもの数	1 人	117 (28.4)	37 (29.4)
	2 "	217 (52.7)	62 (49.2)
	3 "	65 (15.8)	23 (18.3)
	4 "	13 (3.1)	4 (3.2)
祖父母の同居	祖母同居	77 (18.3)	34 (26.8)
	祖父同居	5 (1.2)	1 (0.8)
	無	338 (80.5)	92 (72.4)

場合、医師の話により育児について迷いを生じたと回答した14例中12例(85.7%)、保健婦の話により迷いを生じた14例中10例(71.4%)は現在ストレスを感じていた。

母親の生育歴に関する8種類の問題点について調査を行ったが、母親の半分以上は自分の生育歴に多少は何らかの問題点を感じていた。その中でE群は対照群との差が比較的少なく、小さい子に接する経験の有無は育児指導上、余り問題にならないと考えられる。

表8、表9などより、母親の生育歴に何か問題ある場合、対照と比較して現在の生活・育児などの問題のいくつかが母親学級受講により解決され、現在ストレスを感じる割合が減少しており、母親学級の成果が感じられる。しかし、少数例ながら医師などにより育児について迷いを生じた場合はストレスの率が高かったので、迷いを生じさせないように配慮する必要がある。また、表11、表12などより、母親学級への不満・受講内容と実際の育児とのギャップを指摘する割合は有意に高く、現在の母親学級で改善すべき点を示している。

表10より、母親自身の生育歴との関連で母親学級受講内容に多少差がみられ、各々の母親が自分に少しでも適した内容を受講している傾向がみられる。母親自身が自分の生育歴の問題点を自覚し、受講内容を各自が選択でき、また必要な場合個別指導されることにより、母児への集団指導がより良いものになると考えられる。いたずらに母親の生育歴の問題点を指摘することなしに母親の不安を解消する方針での指導が望まれる。

母親の生育歴に問題ある場合の母児への集団指導のあり方について質問紙調査を行った。「親の育て方に不満が多い」、「子供の頃食事に関して楽しい思い出が少ない」などの印象をもつ母親は、「乳幼児をもつ母親の学級」に参加して、生活や育児などの問題が解決した母親が有意

に多かったが、その学級に対して、現在の自分の育児とのギャップを指摘するなど種々の不満をもつ割合も有意に高かった。

(イ) 学級参加者と不参加者の比較

学級参加の有無と育児に対する自信の有無との関連づけを試みた(表13)。両群とも育児にやや自信がない又は自信がないとする者は約70%を占めていたが、育児に対する自信の有無は2群間に全く差異はみられなかった。

学級参加の有無と児の生活及び食生活上の問題の有無についてみると、当然のことながら育児に自信のない者にこれらに関する問題をもつ者の割合がより高かった。しかし、学級参加者と不参加者との間に有意差は認められなかった。さらに、2群間の問題領域を育児に自信がややない及びない場合について比較すると、両群とも栄養・食事、生活・育児に関する問題をもっている者が約半数を占め、特に育児に自信なしとする者では、学級参加者は不参加者に比べ、生活・育児の問題をもつ者の割合が高かった。

(ロ) 学級不参加者について

学級不参加者について、対象を児の生活や食生活上の問題のある者となしとに分け、母親の職業、学歴、年齢、子どもの数及び祖父母の同居などについての比較を行った(表14)。中でも、母親の学歴が高い程、問題ありとする者の割合が高く、問題なしとする者には祖母が同居している割合が高かった。

学級を欠席した理由をみると、児の生活や食生活上に問題がある場合も、ない場合でも約半数の者はその理由に就労をあげたが、問題なしの者に比べ、ある者には学級の存在を知らなかったという割合が高かった(表15)。

3. 乳幼児をもつ母親を対象とした学級に関する考察

—教材等の資料類の分析を中心に—

近年、育児力の低下と保育情報の氾濫の進むなかで、母子保健と望ましい保育・教育のあり方を学習できる確かな「場」が求められている。

今日では、保健所や教育委員会(特に社会教育関係)が中心となって、乳幼児をもつ親を対象とした各種の学級や講座(以下、母親学級あるいは単に学級と略称)が開かれており、重要な役割を果たしている。これらの学級の名称は受講対象者や実施機関、運営目的・方針等によって、母親学級、妊婦学級(マタニティスクール)、乳幼児学級、さらには家庭教育学級とさまざまで、それに伴い、実際の運営方法や学習内容に特色がみられる。

本稿では、これらの学級で現在使われているテキスト、パンフレット類の教材を手がかりに実施状況をはじめ、具体的な運営内容を、いくつかの項目に分けてまとめた。このことにより、今日各地域で行われている母親学級の全般的な傾向と内容を理解すると共に、今後の学級の「あり方」を考えていくための参考資料となるものと思われる。

(1) 保健所主催の母親学級

現在、保健所では母子保健指導の一環として母親学級を健診時に行っている場合が多く、各地域毎に特色ある取り組みが試みられている。

資料全般を通して保健所による母親学級の一般的傾向としては、

- 1) 内 容：妊娠、出産、育児、栄養及び歯科衛生に関する内容が中心
- 2) 学習形態：講義形式が多く、他に実習、実技が含まれる場合がある
- 3) 開催期間：平均して1～5回以内が圧倒的に多い
- 4) 講 師：学習内容に関連して、保健婦、医師、助産婦、歯科衛生士、栄養士の講師が主

となっている。

例えば、東京・杉並区東保健所の「母親学級」の学習プログラムは次のような内容となっている。

また、大牟田市保健所で使われているテキストでは次にあげる項目を学習内容としている。

母性編

1. 妊娠とは
2. 妊娠中の保健
3. 妊産婦の栄養
4. 妊娠中の病気と注意
5. 未熟児出産を予防するために
6. 出産の準備
7. 妊婦体操
8. お産の経過
9. 産後の注意
10. 産後の家族計画
11. 妊娠と歯

育児編

1. 母乳で育てるために
2. 赤ちゃんの入浴
3. 新生児
4. 1か月頃の赤ちゃん
5. 2～3か月頃の赤ちゃん
6. 子どもの歯

日 割	時 間	科 目	講 師
第 1 回 目	1:30 ~ 2:30 2:40 ~ 3:10 3:15 ~ 4:00	オリエンテーション 妊娠と経過、家族計画 映画（妊娠中の生活・分娩・新生児） グループワーク 質問のまとめ	産 科 医 師 保 健 婦
第 2 回 目	1:30 ~ 2:00 2:00 ~ 3:00 3:00 ~ 4:00	妊婦体操 分娩経過・呼吸法・弛緩法 妊婦の栄養	保 健 婦 栄 養 士
第 3 回 目	1:30 ~ 2:00 2:00 3:00 4:00	分娩経過・呼吸法・弛緩法 実習（妊婦体操・呼吸法・弛緩法） 妊娠中の歯の衛生 歯科検診 （赤ちゃん服 型紙とり）	保 健 婦 歯 科 衛 生 士 歯 科 医 師
第 4 回 目	1:30 ~ 2:20 2:30 ~ 3:20 ~ 4:00	赤ちゃんの衣類・沐浴 赤ちゃんの保育 まとめ	保 健 婦

（東京・杉並区東保健所・「母親学級プログラム」より）

7. 赤ちゃんの皮膚を守ろう

8. 手作りの衣類

（大牟田市保健所「母と子 そのしあわせのため」
テキストより）

この他に、京都市をはじめ、名古屋市等、大多数の保健所がほぼ同じ内容となっている。

こうしたテキストによる学習に加えて、映画、VTR、スライド、OHP、パネルといった、視聴覚機器や展示物を効果的に学習に取り入れている学級も次第にふえていく。

例えば、千歳市（民生部保健課保健指導係）のマタニティ・スクールでは、16mm 映画（「生命創造」、「すばらしい母乳」）とパネル、展示物を使っている。また盛岡市保健センターでは、映画（「新生児の取り扱い」、「産後の健康」）に加えて、スライドを使い、学習者の理解を図っている。（他に、沖縄県宮古、大牟田市、群馬県富岡、千葉県四街道市、福島県郡山の各保健所による母親学級でも映画等の視聴覚教材を導入している。）

また、受講者同士の話し合い（ディスカッション、交流会）や、妊娠、出産、育児に伴う親の不安、心配に対し、質疑応答、個別相談・指導の機会を設けてその解決を図っている学級もみられる。

群馬県伊勢崎保健所の母親学級では、「学級の中での疑問や自分が今どんな心境にいるか……自由に話し合う」時間を設定している。（他に、岩手県釜石、熊本等の保

健所の学級でも行われている）

さらに、北海道江別市保健所の学級では、講義・実技の後に、保健婦側からチェックした妊婦と、妊婦自身の自発的な申し出をした妊婦を対象に、個別相談を行っている。こうした妊婦への保健・健康相談の時間・コーナーを設けている学級には、江別市の他に、埼玉県鳩ヶ谷市保健センターをはじめ、福岡県田川、群馬県富岡、福島県会津坂下、長崎県平戸、熊本市等の各保健所の学級で実施されている。（ただし、特別にこうした時間を設けていなくても、どの保健所でも相談には応じることになっている）

また、地域社会とのかかわりが全般的に稀薄となり、地域の教育力が減少している現在、子どもを産み育てるという共通のテーマを媒介に、新しい地域的結びつきの確立を進めていく機会が今後の子育てを展望する重要なポイントとなるものと思われる。そういった意味において、母親学級への参加をひとつの契機に、地域に住む親同士のつながりと、その後の仲間づくりを促進するための具体的な指導を行なっている学級がみられる。

盛岡市保健センターの学級においては、学習の効果を高め、受講者相互の理解を図る目的で「グループワーク」の時間を設けている。

この「グループワーク」の目的としては、

1. 受講者同志、不安や疑問を援助し合える場とする
2. グループ討議をとりいれ、意見や質問その他のデ

イスカッションをする

3. 出産後も受講者同志が育児その他に関するお互いの情報交換をし問題解決できるように……（以下、省略）

（盛岡市保健センター作成のパンフレットより）
となっており、子育てに伴う不安や心配の解決を図っていただけるような親同士のつながりの育成・指導を行っている。

（2）教育委員会（社会教育担当）による学級・講座

各自治体の教育委員会（主に公民館・児童館等を利用して行われている）が中心となって実施している乳幼児を対象とした学級・講座は、先に述べた保健所主催による母親学級に比べ、いくつか特徴ある内容をもっている。

まず、学習内容では乳幼児のしつけにはじまり、心身の発達、遊び（方）、集団生活、親の役割、家庭教育のあり方等、主に出生後から就学前にかけての子どもの全般的なテーマを幅広く取り扱っている点である。

例えば、東京・港区の「家庭教育学級」では次のような内容で実施されている。

「近年、非行の低年齢化に伴い、幼児期のしつけや家庭教育のあり方が重要視されている」として「よりよい母親となるために」（同区パンフレットより）をテーマに、連続8回の講座を開講している。

学習プログラム

回	テ　　マ	内　　容	講師・助言者
1	（開級式） 我が家の家庭教育	お話し合い	社会教育主事
2	幼児のころ	お　　話	大学教授
3	幼児期の栄養と食生活	”	大学教授
4	幼児のしつけ	”	大学助教授
5	私たちの体と性教育	”	産婦人科医師
6	幼児とあそび	実技とお話	専門学校講師
7	母親の自立・子の自立	お　　話	大学教授
8	しつけ相談	相談と話し合い	短期大学教授

（港区家庭教育学級「よりよい母親になるために」パンフレットより、講師名省略）

また、学習形態は講義の他に、話し合い、実技、見学等の方法が取り入れられているケースや、（例えば、沖縄県浦添市の「幼児家庭教育学級」、八代市教育委員会の「家庭教育学級」、静岡県浜北市教育委員会の「乳幼児学級」他）

映画、VTR、パネル等の視聴覚教材を積極的に導入している学級も近年多くなっている。（例えば、大野城市教育委員会の「乳幼児学級」、尼崎市教育委員会の「子育て学級」、岡谷市教育委員会の「乳幼児学級」他多数）

この他、横浜市金沢区役所（社会教育係）の乳幼児学級では、親同士の仲間づくりを進めると同時に、親子が共に楽しく遊び、ものをつくるといった、親子学習の方法を取り入れている。また、浜北市教育委員会の「乳幼児学級」でも、「親子体操」や「親子野外教室」を学習のテーマに組み、親子のあり方を見直そうとする試みが行われている。（他に、岡谷市、川崎市、横浜市金沢区、城陽市等の各学級・講座でも親子を対象としたさまざまなテーマを設定している。）

各学級・講座を担当する講師に関しては、学習領域が就学前後にわたるため、それに見合う学習内容と、各専門領域の講師の出講が必然的に求められている。そのため、人材も社会教育指導員の他、教員（大学、小学校、幼稚園他）、児童文学者、保健婦、保母、栄養士、教育相談員と、極めて多彩であることも教育委員会主催の学級の特徴となっている。

例えば、川崎市教育委員会主催による「家庭教育学級」では各学習テーマに従って次のように構成されている。

なお、同市で行っている他の学級では、この他に、絵本編集者、母親クラブ、体育指導員、心理相談員、作家等が各テーマ毎に担当している。（同市家庭教育学級のパンフレットより）

同様に、長野県岡谷市の乳幼児学級（湊教室）では、社会教育指導員をはじめ、保育園長、小児科医師、小学校教頭、児童相談員、図書司書、歯科衛生士、栄養士といった幅広い専門家から構成されている。

この他、広島県安芸郡府中町の乳幼児学級は、「祖母の知恵袋」として、地元の熟年青年、熟年婦人の出講を試みている。

このように、教育委員会が中心となって実施している学級・講座は、既述した保健所の学級と比べいくつか相違点がみられる。また各学級・講座によってもそれぞれ独自の試みを行っているケースが多い。

（3）その他

こうした保健所や教育委員会による各種の学級・講座に加え、次にあげるような特徴ある学級運営に取り組んでいるケースがある。

長野県駒ヶ根市では、婚前、新婚、出産をひかえた人を対象に、「明日の親学級」を開催している。学習内容は、「親になること」からはじまり、乳児の育児、乳児の病気と予防、子ども・夫婦・家族等、比較的幅広い

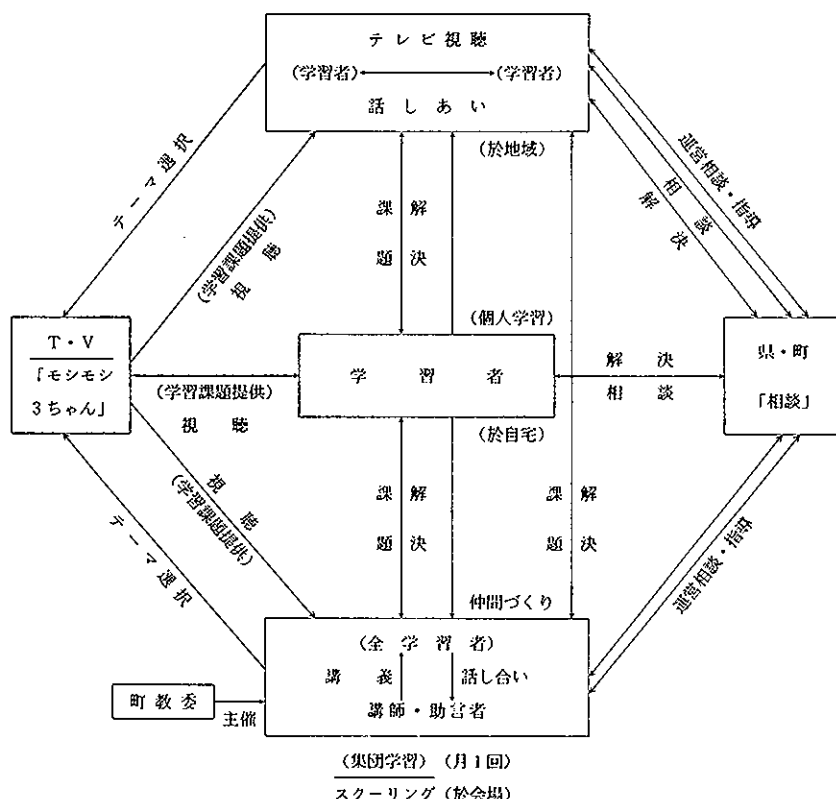
テーマ 親と子のすこやかな成長を願って(含:家庭教育活動)

学 習 課 題	学 習 内 容	講 師
オリエンテーション	すすめ方編成と公班	職 員
幼児期の正しい理解のために(1)	こどもの成長・発達の段階を正しく理解する	大 学 助 教 授
〃 (2)	成長に応じた親の態度としつけ	中央児童相談所長
こどもと本(1)	絵本を通じた母と子のふれあい	児童図書研究家
幼児の健康と栄養	バランスのとれた食事とおやつ <実習>	料 理 研 究 家
親子でレクリエーション	ハイキングと小運動会	保育ボランティア
こどもと本(2)	科学読物のおもしろさを知り、読ませ方を考える	科学読物研究会
集団生活と就園	生活の広がりや集団での生活について	小学校付属幼稚園
学習のまとめ	話し合い、親子合同のおわかれ会	保育ボランティア

(川崎市・多摩第1家庭教育学級:講師名は省略)

「お母さんの勉強室」学習システム (埼玉県幸手町)

(グループ学習)(月1回)8名位5グループ

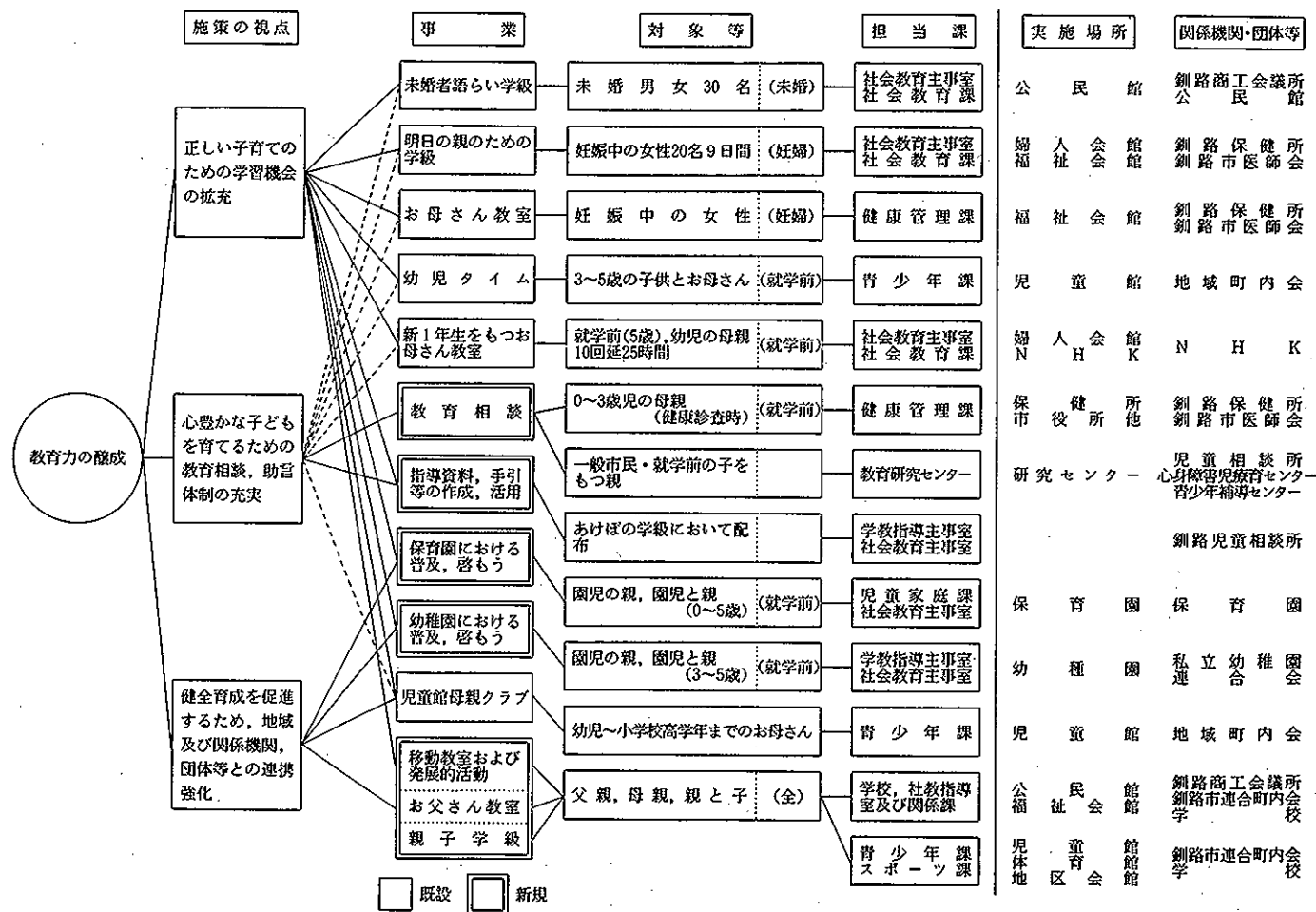


※ 県主催の「3歳児相談ハガキ通信」「巡回相談」等事業を利用し相談による解決をはかる。

※ 「教育相談よいこの電話」 TEL 0488(85)4152・0487(75)4150 による相談学習。

昭和59年度より実施

健全育成を促進するための「あけぼの運動」立体プロジェクト（釧路市教育委員会）



高橋他：母親学級における精神心理面及び栄養面に関する指導方針に関する研究

内容となっている。講義にあたっては、中学校教頭、保健所長、小児科医、教育委員会指導主事が担当している。また、この学級に引き続かたちで幼児をもつ親を対象とした「お母さんの勉強室」を行ない、継続性のある学級運営を実施している。

また、千葉県流山市の「ニューファミリー教室」では、新婚者・妊婦・乳幼児をもつ親を対象に乳幼児教育の学級を開催している。内容的には次に示すように「子育て」全般にわたるものとなっている。

- 1 回——これが子育てのコツです
- 2 回——核家族の子育てハウツー
- 3 回——3歳までにこれだけは
- 4 回——豊かな心を育てる童話の語り方
- 5 回——外国の子育て
- 6 回——子供のまわりに欲しいものは
おもちゃの遊び方
- 7 回——女性の生き方と子育て
- 8 回——子供に育てたいやさしさと強さ
- 9 回——子供のほめ方しかり方
- 10 回——これからの幼児教育

（流山市初台公民館主催「ニューファミリー教室」
パンフレットより、講師名は省略）

さらに、埼玉県幸手町では、個人および集団による学習形態に加え、通信、巡回等の相談学習システムを導入

し、学習機会の拡充に努めている。この幸手町の「お母さんの勉強室」では、2～3歳児をもつ親を対象に、「家庭教育上の諸問題を具体的な日常生活にスポットをあてテレビ視聴を通し」た学習を進めている。学習形態も、

- ① 個人学習（月2回）自宅TV視聴による
- ② グループ学習（月1回）グループによる視聴で話し合いによる相互学習
- ③ 集団学習（月2回）視聴・講義・話し合いによる集団学習

と多様で、あくまで学習者の主体的なかかわりと、それを支える学習体制のもとで進められている点が大きな特徴となっている。また、学習その他、家庭教育に関する質問や相談については、ハガキ、電話、巡回等を通してその解決を図るシステムとなっている。

この他、釧路市教育委員会では、保健所をはじめ、地域の児童相談所、保育所、幼稚園、医師会等、関連機関、団体の協力によって、子育てのための学習機会の拡充と教育相談・助言体制の充実を図る、総合的なプロジェクトを設定し、未婚者を対象とする学級から小学校高学年をもつ親のための学級まで、一貫性のある学級運営を実施している。

また、富山県立山町では、共働きによって育児を祖父母が担当する家庭が多い状況を考慮し、同町保健センターが主体となって「ばあちゃん学級」を実施している。

ばあちゃん学級実施内容（富山県立山町）

ね ら い	方 法	時 間	内 容	担当者
1. 導 入 ばあちゃんと幼児が楽しい雰囲気でする。 ように、また参加者が和やかに過せるようにする。	実 技	10分	・「こんにちわ」の歌をうたって遊戯をする	〃
2. 幼児の正しい発育・発達について理解させる。	ス ラ イ ド	20分	・幼児の発達 ・幼児のしつけ ・遊びの重要性	〃
3. 自分の孫の養育上の悩みや、心配事について、ディスカッションにより、解決の糸口をみつける。	ディスカッション	20分	・祖母同士の討論や 保健婦の助言 ・お茶をだす	〃
4. 子供と遊ぶための遊びの指導	実 技	20分	・手づくりおもちゃの作成 (かざ車・風せん・お面・ボンボンボール)	〃
5. ばあちゃん同士、幼児同士が和やかに別れる。	実 技	10分	・「さようならの歌」をうたって別れる	〃

参考資料（母親学級テキスト・パンフレット）一覧表

1. 保健所

実 施 体 名	名 称	種 類
1. 北海道千歳市保健所	千歳市マタニティスクール	テキスト・パンフレット
2. 北海道江別保健所	マタニティ・スクール	パンフレット
3. 岩手県盛岡市保健センター	母 親 学 級	パンフレット
4. 岩手県一関保健所	母 親 学 級	パンフレット
5. 岩手県釜石保健所	母 親 教 室	テキスト
6. 岩手県宮古保健所	芽 ば え 学 級	テキスト
7. 宮城県仙台保健所	母 親 学 級	パンフレット
8. 山形県山形保健所	(学 級 名 不 明)	テキスト・パンフレット
9. 山形県鶴岡市福祉事務所	学 級 名 不 明 (妊婦・乳児をもつ親を対象)	パンフレット
10. 福島県郡山保健所	母 親 教 室	パンフレット
11. 福島県福島保健所	母 親 教 室	テキスト
12. 福島県平保健所	育 児 教 室	テキスト
13. 福島県会津坂下保健所・町役場	母 親 教 室	テキスト
14. 群馬県伊勢崎保健所	母 親 教 室	パンフレット
15. 群馬県富岡保健所	母 親 教 室	パンフレット
16. 茨城県日立保健所	(学 級 名 不 明)	テキスト
17. 埼玉県鳩ヶ谷保健センター	母 親 学 級	パンフレット
18. 埼玉県行田保健所・同保健センター	母 親 学 級	テキスト
19. 千葉県四街道市役所	母 親 教 室	パンフレット
20. 東京大田区桃保健所	母 親 学 級	文 集
21. 東京杉並区東保健所	母 親 学 級	パンフレット
22. 東京青梅保健所	母 親 学 級	テキスト・アンケート用紙
23. 神奈川県衛生部	母 親 教 室	テキスト
24. 神奈川県足柄上保健所	母 親 学 級	テキスト
25. 石川県砺尾市役所	(学 級 名 不 明)	母子事業実施計画書
26. 岐阜県岐阜北保健所	母 親 学 級	パンフレット
27. 岐阜県大垣市保健センター	(学 級 名 不 明)	テキスト
28. 静岡市東部保健センター	育 児 教 室	パンフレット
29. 愛知県名古屋市衛生局	母 親 教 室	テキスト
30. 滋賀県近江八幡保健センター	子 育 て 教 室	テキスト・パンフレット
31. 京都市衛生局	母 親 教 室	テキスト
32. 京都市衛生局・京都府医師会	乳 児 保 健 教 室	テキスト
33. 兵庫県神戸市灘保健所	育 児 教 室	テキスト
34. 兵庫県姫路市	母 親 学 級・育 児 学 級	テキスト（母子衛生研究会編）
35. 島根県安来市役所保健指導係・ 能義保健所	(学 級 名 不 明)	テキスト
36. 香川県坂出保健所	母 親 学 級	テキスト
37. 福岡県大牟田市保健所	母 親 学 級	テキスト
38. 福岡県添田保健所	母 親 学 級	テキスト
39. 福岡県田川保健所	母 親 学 級	パンフレット
40. 長崎県平戸保健所	妊 産 婦 教 室	パンフレット
41. 熊本市保健所	母 親 教 室	テキスト・パンフレット

42. 宮崎県宮崎保健所	育 児 学 級	アンケート集計表
43. 沖縄県那覇市役所衛生課	母 親 学 級	テ キ ス ト
44. 沖縄県宮古保健所	妊 婦 学 級	パ ン フ レ ッ ト

2. 教育委員会（社会教育関係・公民館主催他）

実 施 体 名	名 称	種 類
1. 北海道江別市中央公民館	家 庭 教 育 講 座	パ ン フ レ ッ ト
2. 北海道江別市大麻公民館	お 母 さん の 勉 強 室	テキスト・パンフレット
3. 北海道釧路市教育委員会	あ け ば の 運 動	パ ン フ レ ッ ト
4. 宮城県泉市根白石公民館・同児童館母親クラブ	お母さんの勉強室のつどい	テキスト・パンフレット
5. 茨城県阿見中央公民館	二 歳 児 学 級	パ ン フ レ ッ ト
6. 埼玉県幸手町教育委員会	お 母 さん の 勉 強 室	テ キ ス ト
7. 埼玉県戸田市教育委員会	母 親 カ レ ッ ジ	テ キ ス ト
8. 千葉県教育委員会		幼児家庭教育相談・育児の手引
9. 千葉縣市川市教育委員会	家 庭 教 育 学 級	テ キ ス ト
10. 千葉県流山市初台教育委員会	ニューファミリー教室	パ ン フ レ ッ ト
11. 東京足立区教育委員会	幼 児 家 庭 教 育 学 級	報 告 集（2部）
12. 東京足立区教育委員会	千寿第三小学校父親学級	報 告 集（2部）
13. 東京港区教育委員会	家 庭 教 育 学 級	パ ン フ レ ッ ト
14. 神奈川県金沢区役所市民課社会教育係	乳 幼 児 学 級	テキスト・パンフレット
15. 神奈川県神奈川区役所市民課社会教育係	神奈川区マタニティスクール	パ ン フ レ ッ ト
16. 神奈川県神奈川区役所市民課社会教育係	乳 幼 児 家 庭 教 育 学 級	パ ン フ レ ッ ト
17. 神奈川県川崎市教育委員会	家 庭 教 育 学 級	パ ン フ レ ッ ト
18. 神奈川県座間市立東地区文化センター	幼 児 を も つ 母 親 学 級	日 誌 他
19. 神奈川県座間市公民館	母と子が共に育つ教室	記 録 集
20. 石川県金沢市教育委員会	幼 児 教 育 セ ミ ナ ー	テ キ ス ト
21. 長野県駒ヶ根市赤穂公民館	お 母 さん の 勉 強 室	テキスト・パンフレット
22. 長野県駒ヶ根市赤穂公民館	明 日 の 親 学 級	テキスト・パンフレット
23. 長野県岡谷市公民館	乳 幼 児 学 級	パ ン フ レ ッ ト
24. 岐阜県各務原市鷺沼・蘇原公民館	乳 幼 児 学 級	パ ン フ レ ッ ト
25. 静岡県浜北市教育委員会	浜 北 市 乳 幼 児 学 級	パ ン フ レ ッ ト
26. 愛知県名古屋市長緑社会教育センター	幼 児 の 心 と か ら だ	パ ン フ レ ッ ト
27. 愛知県豊橋市教育委員会	乳 幼 児 学 級	パ ン フ レ ッ ト
28. 愛知県稲沢市教育委員会	ヤングミセスの育児講座	テ キ ス ト
29. 愛知県稲沢市教育委員会	下 津 婦 人 教 室	パ ン フ レ ッ ト
30. 愛知県稲沢市教育委員会	片 原 一 色 婦 人 教 室	パ ン フ レ ッ ト
31. 京都府城陽市教育委員会、東部第一コミュニティセンター	乳 幼 児 家 庭 教 育 学 級	報 告 集
32. 兵庫県尼崎市教育委員会	尼 崎 子 育 て 学 級	テキスト・パンフレット
33. 兵庫県川西市中央公民館	親 業 訓 練 講 座	パ ン フ レ ッ ト
34. 岡山県倉敷公民館他	小学生のしつけのためのお母さんの勉強室	パ ン フ レ ッ ト
35. 広島県安芸郡府中町立府中南公民館	小学生のしつけのためのお母さんの勉強室	パ ン フ レ ッ ト

36. 広島県三原市教育委員会衛生部保健衛生課	心豊かな子育て教室 —0歳からの出発—	パンフレット
37. 福岡県大野城市教育委員会	乳幼児学級	テキスト
38. 熊本県八代市教育委員会	家庭教育学級	報告集
39. 沖縄県浦添市教育委員会	幼児家庭教育学級	パンフレット

3. その他

実施体名	名称	種類
1. 富山県立山町役場	ばあちゃん学級	資料・アンケート他

おわりに

以上のように、今日行われている各種の母親学級・講座は、実施機関あるいは自治体によって、運営上の内容に差異や特徴がみられる。

全体を通してみると、妊娠・出産等の母子保健に関する学習テーマについては、主に保健所の母親学級が、乳幼児の育児やしつけ等にかかわるテーマでは教育委員会が担当している図式がより鮮明になっているといえる。

また、受講後の感想として、母子保健や子育てに関する知識や技術の習得にとどまらず、「多くのお母さん方と接することが出来、私と同じ体験又違った体験をしている方のお話が聞けたことも勉強になりました。」(埼玉県座間市『幼児をもつ母親学級まとめ』より)と、子育てを共有できる仲間との出会いや受講修了後「サークル活動のようなものを結成して、月1回程度にもって行けたら、子育てに刺激にもなり、しつけにも役立つのではないかと考えています」(沖縄県浦添市『幼児家庭教育学級』より)と、子育てを共通のテーマにした親の仲間づくりを望む声も出される等、学級に対する期待は大きい。

今後は、こうした点をふまえつつ、各学級の特性を生かし、地域の実情と多様化するニーズに応えられる学級の実施と、関係機関・施設との連携を図り、継続性のある学級運営を進めていくことがより一層求められてくるものと思われる。

<注記>

本稿で使用した母親学級のテキスト・パンフレット等の資料は、日本総合愛育研究所による「母親学級における精神心理面及び栄養面に関する指導方針に関する研究」に関する質問紙調査に伴って各実施機関より任意に送付されたものである。(内訳は後の「一覧表」を参照のこと)

なお、同研究の結果については、『日本総合愛育研究所紀要』第21集にまとめられている。

4-1 実験的試み

—母性を育む出産準備学級の例—

(1) 実験方法

- (イ) 対象者 23組の夫婦と妻のみ3名の、計49名
 (ロ) 実験場所 総合母子保健センター講義室
 (ハ) 実験日時 1回目 昭和60年12月20日(金)
 18:00PM~20:30PM
 2回目 昭和61年1月11日(土)
 13:30PM~17:00PM

(ニ) 実験法 実施方法をかえた2Grをつくる。

1Gr. 講義が先で、視聴が後の Gr.

S: 25名 (12組の夫婦と妻のみ1名)

0~5~1:10~1:15~1:40~2:00~2:25
 説 講 休 ビ 講 質 記
 明 義 憩 デ 義 疑 応
 (a) 聴 才 (b) 答 入

2Gr. 視聴が先で、講義が後の Gr.

S: 24名 (11組の夫婦と妻のみ2名)

0~5~1:05~1:40~1:55~3:05~3:25
 説 ビ 講 自 休 講 質 記
 明 デ 義 己 憩 義 疑 応
 (a) 聴 (b) 介 (c) 答 入

(ホ) 視聴・講義内容

視聴ビデオ 母と子のきずな

講義テーマ及び講師

- (a) 妊娠中及び産褥期の精神衛生 堀口貞夫
 (b) 母子相互作用 高橋悦二郎
 (c) 新しい家族のスタート 堀口貞夫
 (他助産婦2名)

(ハ) 評価アンケート

学級の最後に、以下のようなアンケートを行った。

A あなたにとって必要な或いは有益な知識や情報が得られましたか？

1. 得られた→どのようなことですか？

()

2. 既に知っていたのでつまらなかった

B テーマ・内容は、あなたの興味や関心を満足させましたか？

1. はい→どのようなことですか？

()

2. いいえ→その理由は？

()

C 理解しにくいことは、ありませんでしたか？

1. ない

2. ある→どのようなことですか？

()

D 講義方法（話の仕方・所要時間・教材など）はいかがでしたか？

1. 今日、受講した方法でよい

2. 工夫してほしい→アイデアをお聞かせください

()

(2) 結果

A あなたにとって必要な、或いは有益な知識や情報が得られましたか？

	1 Gr.	2 Gr.
得られた	17 (68%)	18 (75%)
つまらなかった	6 (24%)	3 (12.5%)
No. Ans.	2 (8%)	3 (12.5%)

B テーマ・内容は、あなたの興味や関心を満足させましたか？

はい	18 (72%)	19 (79%)
いいえ	2 (8%)	1 (4%)
No. Ans.	5 (20%)	4 (17%)

C 理解しにくいことは、ありませんでしたか？

ない	23 (92%)	20 (83%)
ある	1 (4%)	0 (0%)
No. Ans.	1 (4%)	4 (17%)

D 講義方法（話の仕方、所要時間、教材など）はいかがでしたか？

今日でよい	13 (52%)	18 (75%)
工夫してよかった	4 (16%)	1 (4%)
No. Ans.	8 (32%)	5 (21%)

まとめ

①現代都市社会において、家族の形成期にある特に妊娠・出産をむかえている家族（クライアント）の多くは、コミュニケーションの輪が小さい。心配・不安などを解消するための情報の交換・収集に有効な手だてが持ちにくく、心理・精神的サポートなどが十分に受けられていない。問題解決の基盤が脆弱な現状に対し、医療・保健サイドはもとより他の部門と連携したケア・サービス・教育など心理・社会学的分野を含んだシステム化された出産教育の内容の検討が必要である。②これまで各機関で実施されてきた出産教育では、主な対象は妊婦であったが、夫を対象とすることはファミリーダイナミックスの観点からその意味が大きい。③出産を予定している家族の『出産教育』に対するニーズの多様化を把握し、プログラムのメニュー化などを考慮しどのように応じることが社会的意義をもったケア・サービスなのか、今後検討することが重要である。④個人・集団教育の方法を勘案するにあたり、担当者は、グループダイナミックス、コミュニケーションスキル、リーダーシップトレーニングなどを体験的に習得し、展開できる諸能力の開発が重要である。

4-2 実験的試み

— 幼児をもつ母親を対象とした学級の例 —

(1) 実験方法

(イ) 対象者 2～3歳児をもつ親35名(内父親1人)

幼児は別室で保育

(ロ) 実験場所 総合母子保健センター講義室

(ハ) 実験日時 昭和61年1月18日(土)

10:40AM～3:30PM

(ニ) 実験法 実施方法をかえた2Gr.をつくる。

1Gr. 視聴・講義 Gr. S:17名

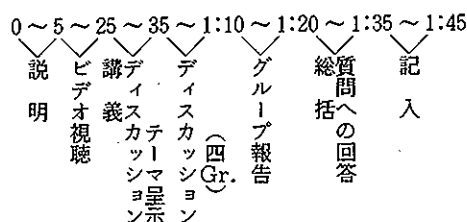
0～5～35～1:10～1:20

説 説 講 記

明 デ 義 入

2Gr. 視聴・ディスカッション Gr. S:18名

高橋他：母親学級における精神心理面及び栄養面に関する指導方針に関する研究



(注) 視聴・講義内容

視聴ビデオ 松田道雄編 (育児の百科)

講義テーマ 幼児の心

講師 高橋種昭

(ハ) 評価アンケート

学級の最後に、以下のようなアンケートを行った。

A あなたにとって必要な、或いは有益な知識や情報が得られましたか？

1. 得られた→どのようなことですか？

()

2. 既に知っていたのでつまらなかった

B テーマ・内容は、あなたの興味や関心を満足させましたか？

1. はい→どのようなことですか？

()

2. いいえ→その理由は？

()

C 理解しにくいことは、ありませんでしたか？

1. ない

2. ある→どのようなことですか？

()

D 講義内容と実際のギャップを感じましたか？

1. 感じない

2. 感じた→どのようなことですか？

()

E 講義方法 (話の仕方・所要時間・教材など) はいかがでしたか？

1. 今日、受講した方法でよい

2. 工夫してほしい→アイデアをお聞かせください

()

F その他、御意見・御希望がございましたらご自由にお願いします。

()

(2) 結果・考察

A あなたにとって必要な、或いは有益な知識や情報が得られましたか？

	1 Gr.	2 Gr.
得られた	15 (88.2%)	17 (94.4%)
つまらなかった	1 (5.8%)	0 (0%)
No. Ans.	1 (5.8%)	1 (5.6%)

B テーマ・内容は、あなたの興味や関心を満足させましたか？

はい	12 (70.6%)	13 (72.2%)
いいえ	4 (23.5%)	5 (27.8%)
No. Ans.	1 (5.8%)	0 (0%)

C 理解しにくいことは、ありませんでしたか？

ない	14 (82.4%)	14 (77.8%)
ある	2 (11.8%)	3 (16.7%)
No. Ans.	1 (5.8%)	1 (5.6%)

D 講義内容と実際のギャップを感じましたか？

感じない	11 (64.7%)	8 (44.4%)
感じた	4 (23.5%)	10 (55.6%)
No. Ans.	2 (11.6%)	0 (0%)

$p < .01$

E 講義方法 (話の仕方、所要時間、教材など) はいかがでしたか？

今日でよい	12 (70.6%)	13 (72.2%)
工夫してほしい	4 (23.5%)	5 (27.8%)
No. Ans.	1 (5.8%)	0 (0%)

以上の結果からわかることは、Dの講義内容と実際のギャップを、視聴・ディスカッション Gr.の方が、より感じたという差以外に、実施方法のちがいにによる差は見出せなかった。ディスカッション Gr.が実際のギャップを感じたのは、お互い身近な問題を話し合う過程でギャップを感じて来た為だと思われる。

次に、自由記述の箇所を質問項目別にまとめてみる。

A あなたにとって必要な或いは有益な知識や情報が得

られましたか？

(得られた事はどのような事だったか)

○ 視聴・講義 Gr.

- ・親子関係について……5名
- ・親の扱いと子どもの性格について……2名
- ・ほめ方、しかり方について……2名
- ・早期教育について……3名
- ・日常生活と結びつくビデオの内容……2名

○ 視聴・ディスカッション Gr.

- ・親子関係について……8名
- ・子どもの反抗やストレスの問題について……4名
- ・子どもの性格について……2名
- ・色々な方の意見や感想……4名

B テーマ・内容は、あなたの興味や関心を満足させましたか？

(満足させたのは、どのような事だったか)

○ 視聴・講義 Gr.

- ・ほめる事の出来る親……5名
- ・日常のかかわりで子どもは育つ……3名

○ 視聴・ディスカッション Gr.

- ・性格形成と親子の接し方について……3名
- ・お母さんが、自分の子どもに対して、どの様に接しておられるかをきけた……2名

(満足しなかったのは、どのような理由によるか)

○ 視聴・講義 Gr.

- ・2歳児の反抗期などについてききたかった……1名
- ・もっと具体的に話し合いたかった……1名

○ 視聴・ディスカッション Gr.

- ・ビデオが現実離れしているように見えた……1名
- ・テーマ「幼児の心」が、漠然とし、全体にまとまらなかった……1名

C 理解しにくいことは、ありませんでしたか？

(理解しにくい事はどのような事だったか)

○ 視聴・講義 Gr.

- ・ビデオの解説がよくききとれなかった……1名
- ・色々な方の話がきけなかった……1名

○ 視聴・ディスカッション Gr.

- ・ビデオのお母さんがあまりしからない事……1名
- ・具体的な答が出せない事……1名

D 講義内容と実際のギャップを感じましたか？

(感じた事はどのような事だったか)

○ 視聴・講義 Gr.

- ・いつも、ゆっくりした気持で、子どもといっしょに居る事は困難……3名

○ 視聴・ディスカッション Gr.

- ・ビデオはとてもきれいで、実生活では精神的ゆとりがない……5名

E 講義方法(話の仕方・所要時間・教材など)はいかがでしたか？

(今後工夫してほしい事はどのような事か)

○ 視聴・講義 Gr.

- ・もっと時間がほしい……3名
- ・質問をする時間を設けてもらいたい……2名
- ・もう少し突っ込んだ内容にしてほしい……2名

○ 視聴・ディスカッション Gr.

- ・テーマが大きすぎたのでもう少ししぼってほしい……3名
- ・もう少し講師の話をきかせてほしい……2名
- ・グループ分けは、子どもの年齢の同じ方がよい……1名

F その他の意見

(肯定的意見)

○ 視聴・講義 Gr.

- ・是非、このような講演会を今後もやってほしい……4名
- ・保育をして下さって有難うございました。集中出来ました……3名

○ 視聴・ディスカッション Gr.

- ・とてもよい講義であった。今後もたびたびききたい……4名
- ・お母さん方と同じ悩みをかかえながら、話を1つの方向にもっていく試みはよかった……1名

(否定的意見)

○ 視聴・講義 Gr.

- ・反抗期の事など、もう少し年齢の上の事もききたい……3名
- ・最後に、皆で講師を囲んで話し合いをする時間があった方がよい……2名

○ 視聴・ディスカッション Gr.

- ・ディスカッションしても、はっきりした結論が出ないのでむづかしい……1名
- ・「幼児の心」とは何か。これからどういう方向で子どもを伸ばせばよいのか、今ひとつ理解できなかった……1名

5. 母親学級の手引書の作成

母親学級の内容については、繰返し述べるように、非常に多岐にわたっている。次に記した手引書は、今回われわれが三年間にわたって行ってきた、種々の研究調査

結果に基づいて、作成されたものである。

心理、栄養面の母親学級手引書内容

I 妊婦の心理、栄養

(1) 母性を育てる

(1)母性とは (2)母となる準備 (3)母親像 (4)人間としての成長 (5)仲間作り

(2) 妊娠・産褥の精神衛生

(1)妊娠・分娩への不安 (2)産褥精神障害 (3)マタニティブルー

(3) 妊婦の栄養

(1)望ましい食生活 (2)こんな時の食生活
(3)毎日の食生活をふりかえって
(4)情報過多の上手な処理
(5)妊婦食デモンストレーション

(4) 妊婦と家庭および社会

(1)家族の協力 (2)仕事に対する心構え
(3)職場の受入れ (4)保育所

II 乳児（0歳）の心理、発達

(1) 乳児の精神発達

(1)発達の理解 (2)運動の発達 (3)知覚認知の発達
(4)言語の発達 (5)情緒の発達 (6)社会性の発達
(7)発達障害

(2) 乳児の生活指導

(1)生活リズムの確立 (2)遊びと玩具 (3)事故と安全

(3) 乳児の栄養

(1)乳汁期 (2)離乳期 (3)集団保育児の栄養と食事
(4)離乳食デモンストレーション

(4) 乳児と家庭および社会

(1)親子関係 (2)兄弟関係 (3)家族形態 (4)乳児と保
(5)乳児と保育 (6)地域の医療福祉サービス

(5) 乳児期の母子の精神衛生

(1)家族の協力 (2)問題児の発生と母親の精神衛生
(3)情報過多の上手な処理 (4)母親同志の仲間作り

III 幼児前期（1～3歳）の心理、栄養

(1) 幼児前期の精神発達（項目は乳児と同じ）

(2) 幼児前期の生活指導

(1)躰 (2)遊びと玩具及び本 (3)テレビのみせ方

(4)おけいこ事 (5)事故と安全

(3) 幼児前期の栄養

(1)食生活の特徴 (2)望ましい食生活
(3)食行動の発達と食事 (4)食事の躰
(5)この時期に起きる諸問題 (6)集団保育児の食生活
(7)幼児食、おやつデモンストレーション

IV 幼児後期（4～6歳）の心理、栄養

(1) 幼児後期の精神発達（項目は乳児と同じ）

(2) 幼児後期の生活指導

(1)基本的生活習慣の自立 (2)社会的規律の獲得
(3)遊びと玩具 (4)本の与え方 (5)テレビのみせ方
(6)おけいこ事 (7)事故と安全

(3) 幼児後期の栄養

(1)健康な体をつくる為に (2)望ましい食習慣の確立
(3)食事を通して情緒豊かに
(4)集団生活と日常の食生活の関わり
(5)幼児食おやつデモンストレーション

V 幼児全期（1～6歳）の心理、栄養

(1) 幼児期の家庭及び社会

(1)親子関係 (2)兄弟関係 (3)友達づくり
(4)幼児と集団生活 (5)地域医療福祉サービス

(2) 幼児期の母子の精神衛生

(1)家族の役割 (2)情緒障害および問題行動
(3)問題児の発生と母親の精神衛生
(4)情報過多の上手な処理 (5)母親同志の仲間作り

6. おわりに

妊産婦や乳幼児をもつ母親を対象にした母親学級のもつ意義が極めて大きなものである事は、今回の研究を通じても痛感させられた。それは単に母親の悩みや不安に
応えるものだけでなく、次代を担う児童の健全育成の為
にも欠かせぬものである。その事は現在のわが国の社会
情勢なり家庭の状況をみれば当然ともいえるが、残念な
がらその要求に応える内容を備えた学級は現在では必ず
しも多いものでない。今回の我々の研究は、その解決の
一助ともなる事を願うものである。